

ROTEX (ローテックス) は国際ロータリーの青少年交換プログラムで海外で生活し、帰国した学生達の集まりです。活動として、大阪に滞在している来日学生や、自分達の後輩達をサポートして、一年間にわたる交換プログラムのイベントを企画、運営をしたり、また自分達の体験を活かしたアドバイスを後輩達に行っています。

その彼らが、新しい活動に挑戦しました。大阪市が主催する「2011国際親善女子車椅子バスケットボール大阪大会」の後夜祭を主管、企画運営をしたのです。これは大阪市が2003年より行っている車椅子バスケットボール大会で、今年は今年の7月に開催された世界選手権大会優勝チームのアメリカ合衆国、3位のカナダ、4位のオーストラリア、そして7位の日本と世界最強の女子チームを招いて開催されました。大会は単なるスポーツ競技会ではなく、各国の選手が大阪市内の学校を訪問する「学校交流会」や選手と市民などが交流する「車椅子バスケットボール体験教室」を合わせて行うなど、市民が参加できる大会と位置づけられています。

乾杯で始まった後夜祭は食事と歓談の時間をとり、車椅子で移動する選手のサポートをしました。バイキングであっても高い位置にある料理などは取る事が出来な

いからです。また、3日間に渡った試合をビデオ録画し、当日の後夜祭では編集したダイジェストを流しました。大阪で活躍するバスケットボールパフォーマー「SOME CITY」と連絡をとり、イベントの目玉としてご出演頂きました。最後はビンゴゲームで楽しく盛り上がり、会は成功裏に終了しました。

会の冒頭から全てを英語で進行した実力は、我々参加した委員会スタッフも驚かされるものでした。また、イベントに望む彼らの積極性は、ロータリーが行う青少年交換プログラムの成果の現れだと自負します。大阪市の方々からもお褒めのお言葉を頂き、来年以降も是非、大会運営に参画してほしいとご依頼を頂戴しました。現在、来年度は来日学生の参加も考えられないか検討をしています。

この企画を進めるにあたり、まず大阪体育大学の講師でこの大会を主催担当されている高橋明先生のご講演をROTEXの例会としてお招きし、またこの5月には関西合同プログラムとして「車椅子バスケット体験教室」を予定しています。見るだけではなく、支える、そして体験する。色々な形での参加意識を持つ彼らに感心すると共に、これからも期待していきたいと思います。

